

NDCをめぐる「分類コード」の 比較検討 0類を対象に

志保田 務

はじめに

『日本十進分類法（NDC）新訂 9版』が1995年 8月25日、日本図書館協会の手で改訂・刊行された。その前の版、新訂 8版の発行が1978年であったから17年ぶりの改訂である。新訂 9版は、「本表編」、「一般補助表・索引編」の2分冊からなっている。「本表」はその中でも中核であるが、分類記号とこれに対する分類項目の提示をその基本構造としている。ただこれら分類記号・分類項目だけでは分類表として十全な使用ができない。この二つを支える補助の機能を備えもつ必要がある。

本稿はこれら分類作業をスムーズにするための補助手段について検討する。なかんずく各類内の「分類規程」について、諸本における提案を比較検討する。

1. NDC新訂 9版における分類作業援助システム（総論）

分類表本表に対する援助システムをNDC新訂 9版それ自体の中にまず質す。この補助手段の代表が「補助表」と「索引」である。

①補助表

“ある主題を細目表によって表現し尽くせないとき、細目表の分類記号に付加してそれを補う補助的分類表である。常に細目表の下位区分として使用され、単独に分類記号となることはない”。（本表編：p. xxiii）

「補助表」には「一般補助表」と「固有補助表」があるが、後者は本表内に、「一般分類表」は別冊に収められている。（NDC新訂 9版〈解説〉2.7 補助表）

②索引

“分類項目を五十音、アルファベット、数字の順に排列し、各分類項目名に分類記号を対応させた一覧表である。(中略)ある主題が各種の観点の相対的關係に留意した索引の意味で相関索引 (relative index) という”。つまり名辞から分類記号を見つけ出すための手段を講じたものである。索引そのものは別巻に所載されている (“解説” は本表編：2.8p.xxiii所載)。しかしこの二つだけでは分類作業は十全に行えない。更なる補助の手段が必要である。NDC新訂9版のうえにそのシステムをたずねてみよう。

③注記および参照・注参照

“分類項目を構成する分類記号と分類項目名の対応關係を補足するために注記および参照・注参照を加えた。” (NDC新訂9版〈解説〉2.6)

.1 注記

対応關係の各種の補足を語句で説明するものである。

- 1) 細分注記：分類項目を細分する方法を語句で説明する。
- 2) 範囲注記
 - a) 限定注記：当該分類項目に包含される範囲の限定を指示する。
 - b) 包含注記：特定項目がその分類項目に含まれることを指示する。
 - c) 排除注記：関連はあるが、当該分類項目の範囲には包含されず他の分類項目に収容される事項を指示する。
 - d) 分散注記：当該分類項目には、基本的、総合的なものを納め、特定分野に存在したり、応用されるものは、それぞれの題に分散して分類すべきことを指示する。
- 3) 別法注記：一般には使用せず、[] つきで分類記号を示した。使用する正規の記号を指示しているが、この別法の記号を使用することもできる。

.2 参照および注参照

分類体系の直列的展開では明らかになりにくい分類項目間の關係を横斷的に關係づける指示である。

1) 「をみよ」参照（直接参照）

a) 別法注記での正規の記号の指示。 例：[253.96] ハワイ→276

b) 形式区分の縮約関係の指示。 例：[340.2 → 342]

2) 「をもみよ」参照（交叉参照：連結参照）

関連がある他の観点からの分類項目と結ぶ。

例：383.91 民家 →:521.86

3) 注参照

排除注記における注記の形に代えて「をみよ」参照で指示する形である。 例：346.7 間接税：物品税 *関税→678.3

④中間見出し（Centered entry）：NDC新訂9版〈解説〉2.9.4の1)

“分類記号配当の都合から階層秩序にひずみを生じた場合に、それを明示する同列の分類記号の複数個について分類記号の範囲と当該分類項目名をフランスパーレン〈 〉に囲んで見出しとする”。これによって階層関係の把握が進められる。この他にも分類表の適用に役立つ、次のような機能が付されている。

⑤分類規程（NDC新訂9版〈解説〉3.4）

“ある分類記号のもとには、同種の図書が集中し、他の分類記号のもとに行くべき異質の図書が混入しない一貫した取り扱いが望まれる。それを実現するために、複雑な主題の取り扱い方法をあらかじめ決めておく必要がある。それを分類規程または分類基準という”。前の版8版では“分類基準”と表現されていた。そこでは分類基準にはまず“一般的な通則”があり更に“特定の主題に関する各則”があるとされた。この新訂9版での“分類規程”は上記二つの“基準”の内“一般的な通則”にあたるものである。“特定の主題に関する各則”にあたるものは別名「分類コード」というが、NDC新訂9にあっては次の形で表されている。

.1 各類概説（NDC新訂9版〈解説〉付 p.xliii—xlvi）

各類の概説を細目表、3次区分表に先だち、まとめ示した。

.2 各細目の分類規程は本表内の所定個所で注記の形で示される。

以下、上記の.1-.2に関することを、NDC新訂9版で確認し、更に既存のテキスト（新訂8版対象）を比較したうえ、少しの検討を加える。

2. NDC新訂9版の分類規程（各則）と解説書における分類コード

NDC新訂9版における分類コードと比較するため下記の著作における分類コードを比較する。それらは旧版、NDC新訂8版を対象に記されているものである。新訂9版では記号・項目が変化した部分がある。この意味から、9版と8版に立つ諸テキストの単純な比較は許されないであろう。その変化を当然視野においた比較をしなければならない。

さて検討結果を、簡単に述べておくと、新訂9版に採り入れられたもの、新訂9版の下における分類コードとして利用することも可能な分類コードも少なくなかった。そこで新訂9版に関しては、各類概説のほかはテキストのいずれかが取り上げている項目と異なるもののみをとりあげた。特に新訂9版で新設の記号には同版のそれにならって右肩に⁺記号を付した。またその記号に対する項目（名）が著しく変化したものには、記号の右肩に[◎]印を付した。素材としたテキスト類は次のとおりである。それぞれの記号の下では省略形で表示する。

鮎沢＝鮎沢修・芦谷清「資料分類法」東京書籍 1984

木原＝木原通夫[ほか]「資料組織法」第2版改訂版 第一法規 1991

国会＝「国立国会図書館和漢書分類コード」国立国会図書館 1980

丸山＝丸山昭二郎[ほか]「図書分類の記号変換」丸善 1984

もり＝もり・きよし「NDC入門」日本図書館協会 1982

NDC 9＝NDC新訂9版1995：但し、必要に応じて簡略に提示する。

分類コードの採録に関しては、索引法研究グループの今西由実子、蔭山久子、北克一、田村俊明、谷本達哉、三浦整氏と共に行ったものを活用した。これらの諸氏にお礼申し上げる。

0 総記

NDC 9（各類概説より）：総記であり1類から9類に主題区分するものの以外の資料を収める。（以下略）

000 (総記)

鮎沢 ここに分類する資料はない。

木原 ここには、総合的著作（1～9類のいくつかの類にまたがる著作）と総合的な主題（1類から9類の各類に属さないもの）の著作を収める。

002 (NDC9：知識.学問.学術)

鮎沢 学問の発達、各国の学術事情、人文科学論を収める。

木原 学問とは何かを本質的に掘り下げたもの、または学問のさまざまな分野にわたって取り扱ったものを収める。

丸山 学問の発達、学術市場一般も収める。

もり 問の発達、各国の学術事情はここに収める。

002.7 (NDC9：研究法. 調査法：電子計算機による情報処理→007.6)

007 (NDC9：情報科学)

木原 ここには、一般的なもの収め、工学的なものは情報工学(548)へ。

丸山 情報科学(007)はいわゆるソフトウェアとし、ハードウェアは情報工学(548)に収める。又データ処理は特定主題に関するものはその主題に収める。

007.1 (NDC9：情報理論：ここには情報科学一般及びソフトウェアを収める)

木原 サイバネティクス、記号、言語とその意味論など基礎理論的なものを収める。

007.11⁺ (NDC9：サイバネティクス)

007.13⁺ (NDC9：人工知能. パターン認識)

007.35⁺ (NDC9：情報産業. 情報サービス)

007.5 (NDC：ドキュメンテーション、情報管理：シソーラス→014.4)

鮎沢 コンピュータ以外の情報処理技術を収める。

木原 こには、主として各種の収集、管理法などを収める。

007.58⁺ (NDC9：情報検索. 機械検索)

007.6 (NDC9：データ処理)

鮎沢 特定主題のデータ処理は各主題のもとへ。

国会 特定主題におけるデータ処理は、それぞれの主題の下に収める。

もり 特定主題におけるデータ処理は、それぞれの主題に収める。

007.609⁺ (NDC9：データ管理)

007.632⁺ (NDC9：エキスパート システム)

007.634⁺ (NDC9：オペレーティング システム)

007.636⁺ (NDC9：機械翻訳)

007.642⁺ (NDC9：コンピュータ グラフィックス)

007.7 (NDC9：情報システム)

木原 全国的、国際的な情報の収集、流通、管理のシステムやネットワークを収める。

010.2 (NDC9：細目表にこの展開なし)

国会 個々の図書館の歴史は、016/018に収める。

もり 個々の図書館の歴史は、016/018に収める。

011 (NDC9 *ここには一般及び公共図書館に関するものを収める)

012 (NDC9 *館種の別なくここに収める。但し一館の建築誌は016/018に)

012.8 (NDC9 *図書館設備：衛生設備、機械設備、電気設備)

国会 自動機械設備は、ここに収める。

013 (NDC9 *ここには一般及び公共図書館に関するものを収める)

014 (NDC9 *館種の別なくここに収める。資料組織法はここに収める)

014.495⁺ (NDC9：一般件名標目表)

014.496⁺ (NDC9：専門図書館件名標目表)

014.612⁺ (NDC9：劣化・破損)

014.614⁺ (NDC9：劣化・破損の対策)

014.66⁺ (NDC9：図書館製本)

国会 公文書の整理法は、ここに収める。

<016/018⁺ 各種の図書館> (NDC9 <中間見出し>)

016.59⁺ (NDC9: 会員制図書館)

017.6⁺ (NDC9: 短期大学図書館)

019 (NDC9: 読書. 読書法)

国会 書評集は、ここに収める。

丸山 書評集は読書法、図書評論集に収める。

019.12⁺ (NDC9: 読書法)

019.13⁺ (NDC9: 速読法)

019.2 (NDC9: 読書指導)

国会 学校教科における読書指導は、375.8に収める。

019.25⁺ (NDC9: 読書感想文. 読書記録)

019.53⁺ (NDC9: 絵本・漫画と読書)

019.9⁺ (NDC9: 書評・書評集)

021/024 (NDC9: <図書・書誌学の各論> ; 中間見出し)

021.23⁺ (NDC9: 音楽著作権)

021.25⁺ (NDC9: ソフトウェアに関する音楽著作権)

021.27⁺ (NDC9: 映像・映画に関する音楽著作権)

021.43⁺ (NDC9: 編集者)

021.49⁺ (NDC9: コンピュータによる編集)

022.809⁺ (NDC9: 製本業)

025/029 (NDC9: <書誌. 目録> ; 中間見出し)

鮎沢 一般を収め、特定主題のものは各主題のもとへ収める。

木原 各主題にわたる目録を収め、特定主題のものは、特定主題のもとへ収める。

025/080 (NDC9: こうした塊りを土台とした中間見出しを設けていない)

丸山 特定主題を持つ図書目録・百科事典、論文・講演集、年鑑、叢書はその主題のもとに収める。

025.8 (地方書誌. 郷土資料目録 *地理区分)

国会 地方書誌、郷土資料目録 地理区分をして用いる。

もり ここには、各分野の主題にわたるものを収め、地方史・誌の資料目録は200に収める。各国・地方の資料目録を多く所蔵する図書館では、地理区分をした方がよい。

026.9⁺ (NDC9：刊本目録〈一般〉)

027.38 (NDC9：[特殊目録]個人著述目録. 個人著作年譜 *289に分類される個人の著述目録・著作年譜はここに収める)

鮎沢 個人伝記が 289に分類される人の著述目録はここに収め他は各主題の下へ収める。

国会 個人伝記が 289に分類される人の著述目録・著作年譜はここに収め、特定主題の下に分類される人の著述目録・著作年譜は各々の主題の下に収める。

丸山 個人著述目録、著作年譜は、哲学・宗教・芸術・文学にかかわる個人のものについてはその主題のもとに収める。(個人伝と同じ扱い)。

もり 個人伝記が 289に分類される人の著述目録はここに収め、それ以外の人のもはその人の伝記のもとに収める。

027.5 (NDC9：逐次刊行物目録および索引 *出版.販売.所蔵目録などはここに収める。*雑誌記事索引はここに：個々の雑誌に関する索引はその雑誌の下に収める)

鮎沢 特定主題のものは各主題のもとへ収める。

国会 雑誌記事索引は、ここに収める。

丸山 雑誌記事索引は逐次刊行物目録および索引 (027.5)に収め、個々の逐次刊行物の索引はその逐次刊行物のもとに収める。

もり 個々の逐次刊行物の索引は、ここに収めないで、その刊行物の下に収める。雑誌記事索引はここに収める。

027.9 (NDC9：非図書資料目録：視聴覚資料目録. 地図目録)

027.92⁺ (NDC9：点字図書目録. 録音資料目録)

027.93⁺ (NDC9：点字図書目録)

027.97⁺ (NDC9：フィルム目録)

027.94⁺ (NDC9：録音資料目録)

028 (NDC9：選定図書目録. 参考図書目録 *郷土資料目録、善本書目、
逐次刊行物目録などは025/028に収める)

鮎沢 網羅的なものは 025へ分類し、選定されたものをここへ。

028.09 (NDC9：児童・青少年向けの図書目録)

028.093⁺ (NDC9：女性向けの図書目録)

030/050,080 (NDC9：こうした区切りの中間見出しは設けていない)

もり 030/050,080の言語区分は、原著の言語により区分する。

030 (NDC9：原著の言語による言語区分。百科事典に関する著作はここへ)

鮎沢 百科事典についての研究・評論は、030に収める。

木原 百科事典 ここには、類書（事物を分類配列し、それぞれの事物に関する諸書の記事を抜粋したもの—古事類苑、嬉遊笑覧など）、事物起源、日用便覧、番付なども収める。

031.7⁺ (NDC9：新設：クイズ集. なぞなぞ集)

国会 クイズ集、問答集。この項を新設する。

031.8⁺ (NDC9：新設：簡易百科事典)

031.9 (NDC9には、この記号なし：新設せず)

国会 児童全科学習事典。この項を新設する。

038 (NDC9：ロシア語；8版では、ロシア語その他)

国会 ロシヤ語、スラヴ語、その他。その他の項には 031/037及びロシヤ語、スラヴ語以外の言語によるものを収める。

もり 「その他」とは 031/037およびロシヤ語、スラヴ諸語以外の言語によるものと解釈する。048,058および088についても同様。

038.999⁺ (NDC9：その他の諸言語：新設)

039 (NDC9：用語索引〈一般〉)

木原 一般の語句索引を収め特定主題の語句索引は特定主題の下へ収める。

040 (NDC9：一般論文集. 一般講演集 *原著の言語による言語区分；ただし014に限り下記のように細分)

木原 一般論文・講演集 1人または数人の論集で、多主題に渡るものを収める。

041.3⁺ (NDC9：記念論文集)

049 (NDC9：雑著 *原著の言語によって言語区分してもよい)

鮎沢 どの主題のもとにも収められない雑文集を収める。

木原 どの主題のもとへも分類できない、一般の雑文集を収める。ただし文学者の随筆は9□4へ。(□は言語区分を表す。以下同様)

国会 049.1/.9に展開し、言語区分をして用いる。

もり どの主題の下にも収まらない雑文集を収め、必要があれば049.1/9に展開し言語区分を用いる。但し文学者の雑文集は9□4に収める。

050 (NDC9：*原著の言語による言語区分) 051に限り下記のように細分)

木原 逐次刊行物 特定主題に関する物は主題の下へ。雑誌に関する物もここへ。

鮎沢 逐次刊行物は別置(3.特殊取扱法)するが多い。

051 (NDC9：*051に限り下記のように細分)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| .1 ⁺ 学術雑誌. 紀要 | .3 ⁺ 総合雑誌 |
| .4 ⁺ グラフィック報道誌 | .6 ⁺ 大衆誌. 娯楽誌 |
| .7 ⁺ 女性誌. 家庭誌 | 〈週刊誌一般〉はここに収める |
| .8 ⁺ 幼児誌. 青少年誌 | .9 ⁺ 情報誌〈一般〉 |

国会 次のとおり展開して用いる。

- | | |
|------------|-----------|
| .1 学術紀要・報告 | .2 調査研究資料 |
|------------|-----------|

- .3 総合・評論誌
- .4 時事・情報・外事誌、グラフ誌
- .5 郷土誌
- .6 大衆・教養・娯楽誌、漫画誌
- .7 婦人・家庭誌
- .8 青少年・学生誌、児童誌
- .9 その他

059 (NDC9：地理区分。総合年鑑および一地域に関する総合年鑑を収める)

木原 ここには総合年鑑、一地域に関する総合年鑑を収め、対象地域で地理区分。

060 (NDC9：団体：学会，協会，会議 *ユネスコ、アカデミー、学会、団体などの歴史・記事・会議録などを収め、学会の紀要報告(逐次刊行物)) は050に収める。

木原 学会など。ユネスコ、学会、団体などの歴史・記事・会議録を収める。ただし逐次的に発行される学会の紀要報告は050/058に収める。

〈061/065 各種の団体〉 (NDC9 〈中間見出し〉)

061[◎] (NDC9：学術・研究機関) *日本学術会議などはここに収める。

063[◎] (NDC9：文化交流機関) *国際交流基金などはここに収める。

065[◎] (NDC9：親睦団体、その他の団体) *ロータリークラブなどはここに収める。

069 (NDC9：博物館〈一般〉の歴史や各地域の博物館事情は、.2の下に地理区分。個々の博物館に関するものは、.6/.8の下に収める)

国会 博物館の歴史一般は069.02のもとで、地理区分をして用いる。

一館の歴史は069.6/.7に収める。専門博物館には下記の項を参照。

069.6⁺ 一般博物館 *地理区分

069.7⁺ 学校博物館

069.8⁺ 専門博物館 (NDC9：専門博物館案内など一般的なものを収める。特定博物館は主題の下に収める。例：科学博物館→406.9)

国会 ここには専門博物館を収め、特定主題の博物館は、その主題のも

とに収める。

070 (NDC9：ジャーナリズム.新聞)

木原 ジャーナリズム及び新聞についての著作を収める。

070.13 (NDC9：報道の自由.新聞と自由)

国会 放送の自由、放送事業における言論の自由は、ここに収める。

丸山 新聞と自由には、放送の自由、放送事業における言論の自由も含める。

070.163⁺ (NDC9：新聞の編集・整理)

070.2 (NDC9：細目表に展開なし)

国会 歴史・事情 *地理区分 上記の項を新設し、地理区分をして用いる。

071/077 (NDC9：新聞紙 *発行地で地理区分。新聞に関するものは070に)

木原 新聞紙はここに収め、発刊地によって地理区分するが、逐次刊行物と同様、別置する場合が大半。一新聞の歴史は070.2に収める。

080 (NDC9：叢書.全集.選集. *原著の言語による言語区分。*体系的に編纂され主題が多岐にわたる多巻物や叢書類、上述の意図によって1冊にまとめられた著作集を収める。*非体系的なもので主題が多岐にわたる論文集、シンポジウムの記録集、講演集、随筆集、遺稿集などは040におさめる。)

鮎沢 原著が各国語にまたがるものは080へ収める。

木原 叢書.全集：原著が各国にまたがるものは080に収める。

090⁺ (NDC9：貴重書.郷土資料.その他の特別コレクション)

3. まとめ

『日本十進分類法 (NDC) 新訂 9版』(1995) の分類コードに関することをまずまとめようとした。0類に限ったものであるが、それだけに集

中の観察することができたとも言えよう。

中間見出し (Centered entry) を多用した。これは、十進分類法の限界、交叉分類が生じることをできるだけ避けようとして設けられたものである。DDC (デューイ十進分類法) では以前から用いられたいたのをNDCで今般初めて導入したものである。これを抽出して示したのであるが、0類では案外少なかった。

次に“ある分類記号のもとには、同種の図書が集中し、他の分類記号のもとに行くべき異質の図書が混入しない一貫した取り扱い”をするために複雑な主題の取り扱い方法をあらかじめ決めておく。これを分類規程または分類基準というが、“特定の主題に関する各則”にあたるものについて考察した。いわゆる「分類コード」である。ただしそのすべてに言及することができないので、0類の、しかも分類法のテキストで取り扱われている部分に関して検討を加えた。なお、NDC新訂9版における新設、変更項目をも抜き出して示した。

この結果、NDC新訂9版における幾つかの特徴を把握することができた。下記のようなようなところである。

- 1) 「全国書誌書誌」を目指すところから、詳細分類となった。
- 2) 新設項目は「+」記号付で示したが、この設定基準が全国書誌で40件を越える場合としている。(NDC新訂9版 2.9.1) しかし実は、そこに多くの資料があるという理由で、分割・移動が止められた項目も、他の類にある。

しかしこの「新設」の記号・項目に疑問がないわけでない。その代表例が〈061/065 各種の団体〉と博物館069の細分原理である。具体的に見ておこう。NDCでは8版まで060の下には地理が展開されていた。

それが次のように変わった

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 061 [◎] (学術・研究機関) | * 日本学術会議などはここに収める。 |
| 063 [◎] (文化交流機関) | * 国際交流基金などはここに収める。 |

065[◎] (親睦団体. その他の団体) *ロータリークラブなどはここに。

更に、069 (博物館) について見る。旧版までにはなかった細分を行うこととなったが、通常予測された「地理区分」を主用しなかった。

〈個々の博物館に関するものは.6/.8に収める〉

069.6⁺ 一般博物館 *地理区分

069.7⁺ 学校博物館

069.8⁺ 専門博物館 (NDC9: 専門博物館案内など… (後略)。

この中で、一般博物館が069.6にあるのと069が博物館の総記であるのと関係が分断されているのではなかろうか。

3) 分野的には、007 (情報科学) を詳しくした。また“010/019については論文レベルの分類を視野に入れて分類項目が分類されている。”

(NDC9 付・各類概説 0類)

4) 国立国会図書館和漢書部類コードからの導入が目立つ。これは1)を前提とした方針から自動的に起こっているのであろう。

5) ほかのテキストからの導入も明白ではないが似た面もある。

例えば、「言語区分」が用いられる、030 (百科事典)、040 (一般論集. 一般講演集)、050 (逐次刊行物)、080 (叢書. 全集. 選集) に関する。この「言語」が原著の言語か、その資料の最終の表現言語の言語か不明であった。それについてNDC新訂 9版は「原著の言語」と初めて規定した。これは良い処置である。これのもととなったのは、間接的であるが、鮎沢、木原 [ほか] による指示があった。

鮎沢 原著が各国語にまたがるものは 080へ収める。

木原 叢書. 全集: 原著が各国にまたがるものは 080に収める。

こうした、テキストの掲げる独自の「分類コード」の意味は何であろう。それは、基本的に、NDCにおけるコードの足りないところを補う意図にある。だが、あまりに独自のなものであってはNDCのためのテキストとして相応しくないものとなる。だが一方、NDCの解説そのものを写しただけの

ものではテキストの意味を持たない。ここに分類テキストの難しさがある。その接点の見つけ方こそが問題なのかも知れない。

こうしたことをこの小稿は問おうとしたのである。ただし、本稿は、その素材を、わずかに0類に限って提示したに過ぎない。

分類コードの採録に関して、上記・索引法研究グループの今西由実子、蔭山久子、北克一、田村俊明、谷本達哉、三浦整氏に礼申し上げる。また下記の文献を参照した。

北克一・今西由実子「0類（総記）の問題点」（NDC 9版を考える〈3〉その1） 図書館界44（6）1993.3 pp.298-302

末尾ながら、ここに投稿を許された平田伸夫先生にお礼申し上げる。